

2020年2月13日
一般財団法人 日本気象協会

2020年 春の花粉飛散予測(第4報) ～ 花粉シーズンがスタート 東京も飛散開始 ～

◆2020年 春の花粉飛散予測のポイント(2020年2月13日発表)

- ・全国的に例年より早く花粉の飛散が開始
- ・東京では、例年より2週間早く2月3日に飛散開始
- ・2月下旬にはスギ花粉の飛散ピークに入る地点が多い

一般財団法人 日本気象協会(本社:東京都豊島区、理事長:長田 太)は、2020年2月13日(木)に全国・都道府県別の2020年春の花粉(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)飛散予測(第4報)を発表します。また、詳細な情報を、「2020年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。

1. スギ花粉の飛散開始時期

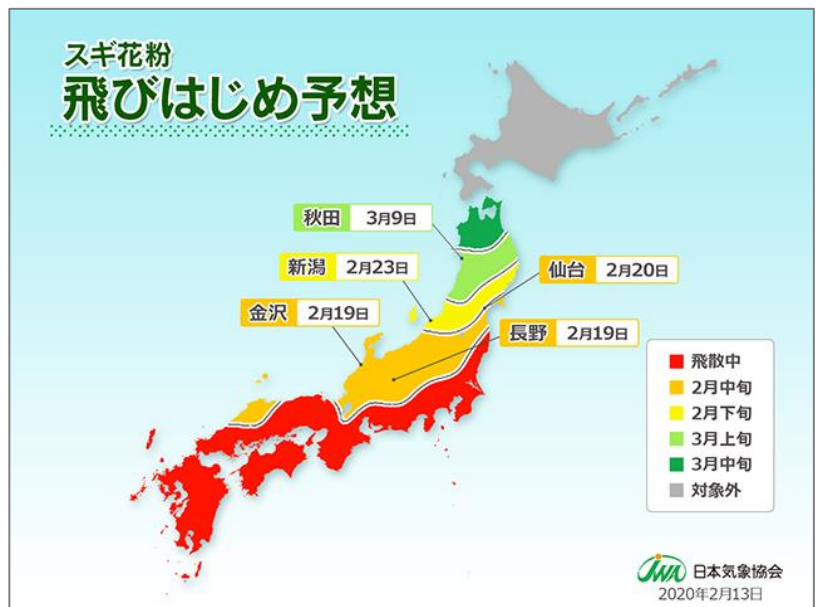
この冬(12月～1月)は、西・東日本を中心に気温がかなり高くなりました。日本海側では降雪量が少なく、暖冬傾向が続いています。

1月末から2月頭に、西日本、東日本の各地で花粉が飛散開始しました。全国的に例年よりも早く飛散開始となった地点が多く、東京都内でも2月3日に、例年より2週間早く飛散が開始しています。

まだ飛散開始を確認していない地域でも、東日本を中心に2月中には飛散開始となる地点が多いでしょう。3月上旬には東北北部でも飛散開始となる見通しです。

※飛散開始日

1平方センチメートルあたり1個以上のスギ花粉を2日連続して観測した場合の最初の日



2. 各地のピーク予測

2020年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

2020年2月13日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
大阪	スギ									
	ヒノキ									
広島	スギ									
	ヒノキ									
高松	スギ									
	ヒノキ									
福岡	スギ									
	ヒノキ									

2020年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

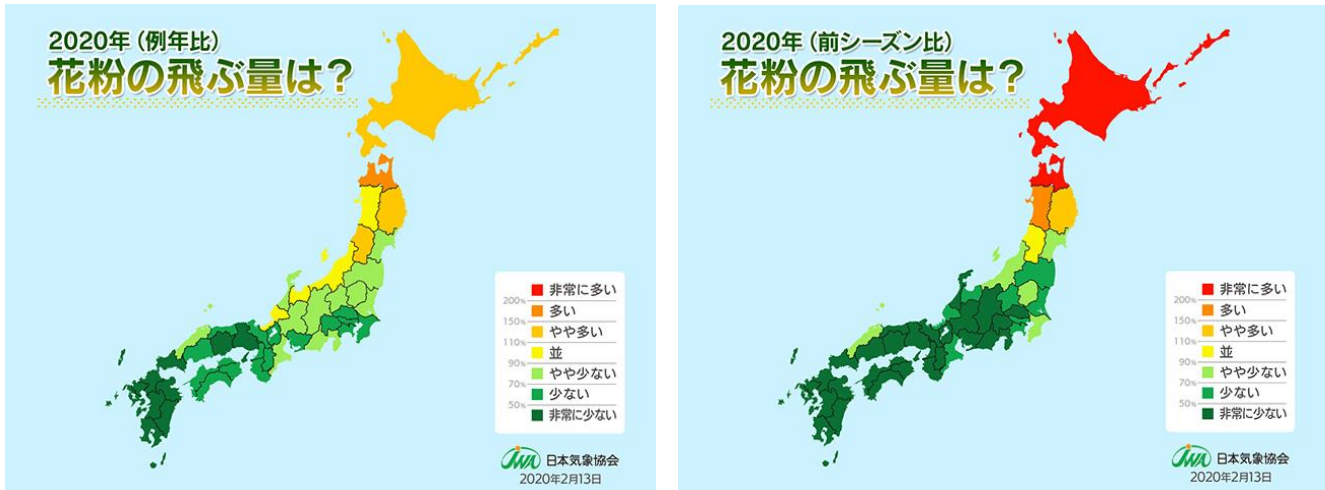
2020年2月13日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
仙台	スギ									
	ヒノキ									
東京	スギ									
	ヒノキ									
名古屋	スギ									
	ヒノキ									
金沢	スギ									
	ヒノキ									

スギ花粉飛散のピークは、福岡で2月下旬から3月上旬、大阪では2月下旬から3月中旬となりそうです。東京は2月下旬から3月下旬が飛散のピークとなる見通しで、例年よりピークが早まりそうです。仙台は3月上旬から3月下旬がピークで、例年より早まるでしょう。

スギ花粉のピークが終わる頃になるとヒノキ花粉のピークが始まります。福岡は3月下旬から4月上旬、大阪は3月下旬から4月上旬がヒノキ花粉のピークです。東京は4月上旬から4月下旬がピークとなる見通しです。金沢と仙台は4月を中心にヒノキ花粉が飛散しますが、飛散量は他の地点と比べると少なく、はっきりとしたピークはないでしょう。

3. 2020年シーズン花粉飛散傾向



2020年春の花粉飛散量は、九州から関東甲信まで、ほとんどの所で例年より少ないでしょう。特に、九州では非常に少なく、中国や近畿でも非常に少ない所がありそうです。東北南部は、おおむね例年並み、東北北部と北海道ではやや多い見込みです。

一方、前シーズンとの比較では、九州から東海は、広い範囲で非常に少ない見通しです。北陸、関東甲信、東北南部も少ないでしょう。東北北部は前シーズンより多めの飛散量となりそうです。北海道と青森では非常に多い予想ですが、これは前シーズンの飛散量が例年に比べて非常に少なかったためです。

4. 各地域の花粉飛散傾向

地方	飛散量				2019年夏の気象		
	例年比	地方平均値	前シーズン比	地方平均値	気温	降水量	日照時間
北海道	やや多い	130%	非常に多い	300%	高い	多い	平年並
東北	例年並	100%	やや多い	110%	高い	平年並	平年並
関東甲信	やや少ない	70%	少ない	50%	高い	多い	少ない
北陸	例年並	90%	少ない	50%	高い	平年並	平年並
東海	やや少ない	70%	非常に少ない	40%	高い	多い	少ない
近畿	少ない	50%	非常に少ない	30%	平年並	多い	少ない
中国	少ない	50%	非常に少ない	30%	平年並	平年並	少ない
四国	少ない	50%	非常に少ない	30%	平年並	多い	少ない
九州	非常に少ない	30%	非常に少ない	20%	平年並	多い	少ない



【花粉の種類について】

北海道はシラカバ、その他はスギ・ヒノキ花粉の飛散量を表します。

【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い	: 前シーズン (例年) の 200% 以上
多い	: 前シーズン (例年) の 150% 以上 200% 未満
やや多い	: 前シーズン (例年) の 110% 以上 150% 未満
前シーズン(例年)並	: 前シーズン (例年) の 90% 以上 110% 未満
やや少ない	: 前シーズン (例年) の 70% 以上 90% 未満
少ない	: 前シーズン (例年) の 50% 以上 70% 未満
非常に少ない	: 前シーズン (例年) の 50% 未満

前シーズン	: 2019 年シーズン飛散量
例年	: 過去 10 年(2010~2019 年)の平均値

【2019 年夏の気象に関する言葉の説明】

平年	: 1981~2010 年の平均値
----	-------------------

5. 日本気象協会の花粉飛散予測とは

日本気象協会は 1990 年からスギ花粉の飛散予測を発表しています。日本気象協会の花粉飛散予測は前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などの気象データをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽の現地調査の結果などをふまえて予測しています。

花粉の元となる植物の育成には、前年夏(6 月~8 月)の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の花粉の飛散数が多くなるといわれています。花芽は夏の早い段階で育つため、日本気象協会の花粉飛散予測では 6 月と 7 月の気象条件を特に重視して予測を発表しています。

日本気象協会の花芽調査では、スギやヒノキなどの植物に詳しい「植物のプロ」や、花粉の研究に長年携わっている学識者の協力を得ながら、その土地の気候や地形を知る「気象のプロ」による定点観測を重視しています。

・花粉飛散予測情報の無断での法人利用（プレスリリースでの引用や販促目的使用など）はご遠慮いただいております。商品 PR など法人利用をご検討の際はお問合せフォーム (<https://www.jwa.or.jp/contact/>) からご連絡をお願いします。